

樟蔭中学校・高等学校  
平成24年度 学校評価報告書

【自己評価】

1 教育目標

(1) 建学の精神

「樟蔭学園はこのときあたり、知情意兼備の豊かな母性が、女性の充実した人生も、地球の明るい未来も、ともに約束するという信念に基づき女子教育を志す」(創立者の思い)

この思いのもと、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた社会に貢献できる女性の教育をめざすものである。

(2) 基本方針

- ① 自ら学び、自ら考える力を育成するため、総合的な学力の向上に努める。
- ② 進路に応じたコースを選び、適性を伸ばしつつ将来の志望を実現できる学力を養成する。
- ③ 自らの判断に基づいた行動ができる「自立性」と、社会生活や学校生活における「規範意識」の涵養に努める。

2 平成24年度取り組みの重点項目

(1) 学校運営

- ① 情報の分析・理解と共有による、組織で動ける体制づくり
- ② 個人の課題解決が組織の課題解決に繋がるような、個人の到達目標の設定
- ③ 学校の未来を考え、対応を検討する体制づくり

(2) 教育内容

- ① 3年コース・6年コースの目標を達成するカリキュラムの編成
- ② キャリア教育を充実させる取組の実施
- ③ 朝や放課後の時間の活用

(3) 生徒指導・支援

- ① 自治会活動・学校行事・部活動などによる自主性の育成
- ② 挨拶・マナー・身だしなみ指導の徹底
- ③ 授業に取り組む姿勢の指導継続

(4) 教員研修・資質向上

- ① 到達目標システムによる経年目標管理の意識付け
- ② 運営委員会議や学年主任会議の活性化
- ③ 生徒による授業アンケートの活用

3 重点項目の達成状況及び取組状況

(1) 学校運営

- ① 情報の分析・理解と共有による、組織で動ける体制づくり

平成 21 年に教員に貸与したノート PC と本校使用ソフト「desknet's」により、相互連絡及び情報共有がより一層充実した。中高の職員間の連絡や、併設する大学や事務局との連絡、ファイルの転送・共有などはこのソフト上で行われている。また、会議資料は本校内のサーバー内のフォルダに入れており、ペーパーレス化とともに会議時間の短縮が図られた。

- ② 個人の課題解決が組織の課題解決に繋がるような、個人の到達目標の設定  
学校の教育目標や基本方針に基づき、教員一人一人が個人目標を設定する。あわせて、管理職との面談を実施し、目標と実行の徹底を図った。
- ③ 学校の未来を考え、対応を検討する体制づくり  
若手や中堅教職員による「未来検討委員会」を設置し、現在の課題及び今後の展望について議論。

## (2) 教育内容

- ① 3年コース・6年コースの目標を達成するカリキュラムの編成  
平成 25 年度入学生から実施される高等学校学習指導要領を踏まえ、関係部署で検討を開始。また、中学校における個々の定着度に合わせたクラス編成及び授業方法の工夫に努めた。3年コースの「進学講座」については、講座内容等を再検討中。
- ② キャリア教育を充実させる取組の実施  
中学校における 7HJ（「7つの習慣」）の実施や作文指導をする中で、マナーや道徳、時事問題について考えさせた。高校生においては、各種講演会や「リバティおおさか」の見学、大学のオープンキャンパスへの参加、卒業生による体験談や大学生活の紹介、様々な大学による説明会、イングリッシュキャンプ（児童教育コース）、薬師寺における実習や木曽福島自然体験学習（健康栄養コース）などの実施により、キャリア教育の充実を図った。
- ③ 朝や放課後の時間の活用  
6年コースにおいては、各学年週 1 回の朝の学年集会を実施して、ものの考え方や生き方について、発達段階に応じた内容を講話。集会のない日は、低学年においては「100マス計算」や「音読」を、中学 3 年以降は英語・数学・国語を中心とした小テスト、英語のリスニングや NIE を実施。中学校では、終礼テスト後の放課後は、指名や希望による補習及び自習を実施。高校においては大学受験に対応した各補習と、高校からの入学生を対象とした進度確保補習を実施。  
3年コース・6年コースともに、午後 8 時まで自習室を開放（中学生は 6 時まで）。担当教員が最寄り駅までの見送りを、他の教員も質問に対応できるようにしている。

## (3) 生徒指導・支援

- ① 自治会活動・学校行事・部活動などによる自主性の育成  
自治会指導部教員のサポートのもと、中高ともに議会や自治会総会、委員会活動を実施し、自治会会費の運用や文化祭・体育祭の運営を生徒主体で行っている。
- ② 挨拶・マナー・身だしなみ指導の徹底  
生活指導部の指導のもと、校則の遵守、マナーの励行、安全教育の徹底などを実施。問題行動の発生の未然防止、発生時の迅速な対応に努めた。また、携帯電話や PC の LINE などの SNS やブログについては生徒及び保護者を対象とした講演会を実施。

③ 授業に取り組む姿勢の指導継続

授業開始・終了時のしっかりとした挨拶や、正しい言葉づかいの徹底を図った。授業での課題が明確になった時は、担任・学年・生活指導部の連携により解決に当たった。

(4) 教員研修・資質向上

① 到達目標システムによる経年目標管理の意識付け

目標の設定や面談を実施。継続と深化が必要。

② 運営委員会議や学年主任会議の活性化

かなり深いところまでの議論が行われるようになっている。

③ 生徒による授業アンケートの活用

1学期に実施。今後はアンケート結果の活用について、さらに検討を進めていく。

4 今後の改善方策

(1) 学校運営

- ・ 校内 LAN を活用した情報共有
- ・ 生徒・保護者・教員の意識を把握し、課題解決の方向を提言できる組織づくり

(2) 教育内容

- ・ より実効性のあるカリキュラム研究
- ・ これまでの取組の細部にわたる総括の実施

(3) 生徒指導・支援

- ・ 各リーダーを中心とした生徒の自主性の更なる育成
- ・ 指導週間の設定など、教員全体による取組の継続

(4) 教員研修・資質向上

- ・ 生徒による授業アンケートの活用と、授業研究の実施
- ・ 日々の授業や学校行事における若手教員に対する OJT

【学校関係者評価】

1 学校評価委員会の構成

私立学校長経験者、公立中学校長経験者、民間教育機関代表者、民間教育産業代表者、本校中学校 PTA 会長、本校高等学校 PTA 会長

2 自己評価の結果について（感想と提言）

- ・ 今の日本の課題は少子高齢化、産業の空洞化であり、これを何とかすることが教育面でも課題になってくる。その中で、「知情意」という言葉のもと、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成を樟蔭が掲げるのは評価に値する。
- ・ 社会に出て、どれだけ活躍できる人材になるかということを考えさせることが重要。
- ・ これからの学校選択で指標となるものは、人格形成の場となっているか、自尊感情を育む場となっているか、積極性を育む個人重視の場となっているかである。そのような観点からチェックすることが重要。

- ・ 中高一貫校の場合、中学3年及び高校1年で中だるみとなる時期がある。その時期には学校満足度が大きく低下する傾向がある。その時に、どのような取り組みをするかを検討すべきである。
- ・ 家庭での学習習慣を、学校で付けさせるシステムの導入を検討してみてもどうか。
- ・ 樟蔭には上に大学があること、また、女子校の良さということをアピールすべきではないか。
- ・ 特に高校入試の場合は、断片的な情報だけで学校を選択する傾向がある。学校の良さや入学後の付加価値についての周知を徹底することが必要である。
- ・ 樟蔭の広報はやや地味なのでは。もっと積極的に塾などを回ったほうがよい。
- ・ さらに、定期的にハガキを出すなど工夫が必要と思う。
- ・ オープンスクールの実施方法にも、生徒の活躍できる場を設けるなどの工夫を検討してみても。
- ・ 中高大の連携による広報のあり方を検討する必要がある。

《アンケート結果》 ～ 質問に対する肯定的な回答（平成25年3月実施）

1 生徒

	質 問	肯定的回答
学校生活全般	学校に行くのは楽しい	87%
	学校生活に満足している	85%
	建学の精神（高い知性と豊かな情操）に合った教育をしている	66%
	樟蔭の生徒であることに誇りを持っている	83%
	本校には打ち込める部活動や生徒会活動がある	69%
	学校外での行事（遠足・修学旅行・学舎等）が充実している	81%
	学校内での行事（若葉祭・講演会等）が充実している	79%
	ホームルーム活動は活発でクラスにまとまりがある	66%
	先生は生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる	64%
学習	授業は分かりやすく充実したものが多い	67%
	教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い	57%
	授業で分からないことについて先生に質問しやすい	67%
	興味・関心や進路希望に応じて選べる選択科目が多い	64%
	自分から進んで学習する雰囲気がある	49%
進路指導	進学に関する進路情報の提供は十分である	64%
	生徒の進路に向けて効果的な指導をしている	66%
	将来の進路や生き方について考える機会がある	56%
生活指導	本校は挨拶や時間厳守などの指導に力を入れている	84%
	本校は服装・頭髪等に関する指導に力を入れている	94%
	交通安全などの安全指導に積極的に取り組んでいる	82%

施設設備	校舎は安全かつ衛生的に管理されている	67 %
	ロッカー・靴箱・傘立て等の校内の施設は使いやすい	72 %
	教室・特別教室・体育施設等はよく整備されている	71 %

## 2 保護者

質 問	肯定的回答
子どもは学校生活に満足している	94 %
学校は建学の精神（高い知性と豊かな情操）に合った教育をしている	83 %
学校から保護者への連絡はスムーズに行われている	86 %
授業は分かりやすく基礎学力をつけてくれている	89 %
進路指導は適切に行われている	90 %
生活指導に積極的に取り組んでくれている	88 %